

## 9/26 ルツ記 3 章 18 節-4 章 10 節「その子の名が打ち立てられる」

小池 宏明 牧師

ベツレヘム出身で故エリメレクの妻ナオミとモアブ人の嫁ルツ（エリメレクの息子故マフロンの妻）は、約十年ぶりにユダの町ベツレヘムに帰って来た。季節は、春、大麦の刈入れが始まる頃だった。嫁のルツは外国人や未亡人に許されている落ち穂拾いをしながら姑のナオミと一緒に暮らし始める。

### \*ボアズとルツとの出会い

ルツが落ち穂を拾いに入った畑は、「はからずも」(2:3)エリメレクの親類で買い戻しの権利を持っているボアズの所有地であった。ルツの身の上を知っているボアズはルツに好感を持った。ルツとナオミは敬虔で弱い者に憐れみ深いボアズを信頼するようになった。ナオミはこの出会いが主のご計画であることを悟り、ルツにボアズとの結婚を勧めた。それは、モーセの律法によれば、親類には亡くなった者の家系を残し相続地を守るために買い戻しの権利を行使する責任があることを知っていたからである。ナオミは亡き夫エリメレクとその息子マフロンの土地を守り、ボアズとルツが結婚することによって子孫が残るように願った。

### \*ボアズの憐れみと祝福

ナオミとルツの意図を知ったボアズは、ルツと結婚することを決意し、自分よりも優先順位が高い親類に買い戻しの権利を譲ってくれるように申し出た。交渉は成立して、ボアズはエリメレクの土地を買い戻し、ルツと結婚することが認められた。ルツとボアズの間にも生まれた子は、オベデと呼ばれた。このオベデの子孫からダビデ王が生まれ、イエス・キリストへとつながる祝福となった。オベデは「仕える」という意味である。ナオミもルツもボアズも、信仰深く主なる神様に仕え、主の導きに従って生きようとした。そして、互いに相手（隣り人）のことを思いやる愛情を表した。

私たちも自らが遣わされている家庭において、神の家族と言われる教会の交わりにおいて、自分のことではなくて、相手のことを思いやり優先する生き方することが、まことに幸いな人生の秘訣になって行くのではないだろうか。こうして、私たちは、互いに仕え合うこと、互いに愛し合うことを通して、私たちの希望である救い主イエス・キリストをお証しすることになるのだ。主イエス様は十字架を目前にして語った。「わたしはあなたがたに新しい戒めを与えます。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるようになります。」(ヨハネの福音書 13 章 34、35 節)